

食育事業取組報告書(米子小学校)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育てる・作る・食べる・返す	実施年月日	4年 4月～10月
教科名	生活科	指導者	講師 細井 あづさ
単元名	わたしたちの野菜いばたけ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の成長を楽しみにしながら、親しみの気持ちをもって野菜の世話をしようとしている。 ・進んで野菜を育てる活動を通して、野菜も生きているということを実感し、またそれを食べることに感謝する気持ちを育てる。 		
児童・生徒の活動		支援・指導上の留意点	
<p>○育てたい野菜を決め、育て方を調べる。</p> <p>○野菜の苗を植える。</p> <p>* ボランティアの方々にお礼の手紙を書いた。</p> <p>○水やりや草取りなど継続的に世話をする。生長を記録する。</p> <p>○収穫した野菜を観察し、家庭に持ち帰って食べた。</p> <p>○収穫できたことに感謝し、畑をならす。</p>		<p>・一人2つ育てたい野菜を決め、栽培時期や栽培方法を調べた。</p> <p>・保護者ボランティアと用務手(畑の先生)と野菜を植えた。苗の植え方とともに、水やりを欠かさないと、背が高くなったら支柱を立てること、毎日見に行き成長を確認することなどを教わった。</p> <p>・登校後と下校前に苗の水やりをする。</p> <p>・なかなか実がつかなかったので、対処法を用務手に助言してもらった。簡単には野菜は育てられないことを実感した。</p> <p>・生長の記録は、国語「かんざつ名人になろう」と関連付け、「草たけ」「葉の色や大きさ」「実の数や大きさ、色」を絵と言葉で行った。</p> <p>・収穫した野菜は家に持ち帰った。食べた翌日には、朝のスピーチで調理方法や家の人の感想などを発表させた。また、たくさん収穫できた野菜は、順番に友だちにも配り、いろいろな野菜の収穫を味わった。</p> <p>・収穫できたことに感謝し、野菜に手紙を書いた。その後、畑の先生である用務手の協力を受けながら、自分たちで野菜を引き抜き、畑をならした。</p>	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から育てる野菜を一人2つに増やしたことで、子どもたちが収穫の喜びを大いに味わうことができた。 ・自分の苗をしっかり責任をもって育て、収穫したら家族のために持ち帰った。「自分で育てた野菜を食べてみたら、苦手だった野菜もおいしく思えた。」と記述する子も見られ、食に対する意識の変化が見られた。自分たちで食べ物育て、食べるという活動はとても有意義だった。 ・夏休み中、畑の作物を自由に収穫してよいと話していたが、収穫に来る児童が少なかった。周知の仕方を工夫する必要がある。 		
家庭・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者ボランティアの方からは、たくさん教えてもらったり手伝ってもらったりして、大変ありがたかった。子どもたちも、家族と一緒に作業ができてうれしそうだった。 ・学年だよりで、子どもたちの様子や野菜の生長を知らせた。 ・収穫した野菜を家に持ち帰ったことで、家庭でも食べてもらえた。 		

